

13 インターネットを活用した研究セミナー等に関する調査研究
研究代表者 馬場 祐次郎（社会教育実践研究センター長）

① 研究の趣旨，ねらい

新エル・ネットシステムを活用した遠隔社会教育研修の仕組み及び遠隔社会教育研修用教材の活用方策について実証的に研究するとともに、遠隔社会教育研修において中核的役割を果たす学習支援者としてのチューターに求められる役割について明らかにし、今後の効果的な遠隔社会教育研修の推進に資する。

② 研究成果の概要

- インターネットを活用した個人学習と集合研修の組み合わせによる遠隔社会教育研修の新たな研修形態の運営方法を開発するため、栃木県、滋賀県福岡県の「図書館関係職員研修」でモデル的に実証研究し、その効果的な方策を検討した。
- これまでの実証研究において、遠隔社会教育の新たな研修形態を効果的に運営するためには、チューターの役割が極めて重要であると推察されていることから、チューターの役割を明確にするためチューターを対象とした自己点検・自己評価を行い、その結果をまとめた。
- 「図書館関係職員研修」の実証研究において明らかとなった、遠隔社会教育研修用教材の制作上の課題を踏まえ、次年度の実証研究に向けて「社会教育主事研修～社会教育法改正と今後の社会教育～」の内容を検討し、一部教材を制作した。
- 実証研究とアンケート調査等から、個人学習と集合研修の組み合わせによる新たな研修形態をとることにより、多様な経験年数により生じるレディネスの不揃いを解消し、研修参加時のレベルを一定に保てるなど、新たな研修形態の効果が明らかになった。
- 遠隔社会教育研修の新たな研修形態を効果的に運営するチューターの役割に関して、「チューターのためのマニュアル」を作成した。また、インターネットを活用した研修形態となっており、教材を視聴するシステムのトラブルを解消し研修を効率的に進めるため学習教材の活用方法などをまとめた「研修参加者のための手引き」を作成した。

③ 中期目標との関連性

- 中期目標〔目標４〕「社会教育分野での実践的な研究の推進」に関連するものである。特に、インターネットを活用した「図書館関係職員研修」に

関するチューターのマニュアルと参加者の手引書を作成し、図書館関係職員の資質向上を目指すことから、(2)「社会教育関係職員の資質向上を図る取組への支援の実施に関する調査研究」に関連するものである。

- 社会教育実践研究センターの活動目標【目標2】「社会教育事業を充実発展させるための新たな手法の開発や社会教育事業の検証・評価に関する調査研究を推進する」に関連するものである。個人学習と集団研修の組み合わせによる研修プログラムの開発、インターネットを活用した遠隔社会教育研修の手法等について実践的に研究している。

④本研究に盛り込まれている主なデータ項目

- インターネットを活用した研修に関する事前アンケート集計結果
- 実証研究「図書館関係職員研修」におけるチューターを対象とした自己点検・自己評価に関する分析

⑤今後の研究予定

- 平成21年度に「インターネットを活用した遠隔社会教育研修の在り方に関する調査研究」に取り組む予定である。

⑥キーワード

- (1) インターネット
- (2) 遠隔社会教育研修
- (3) 遠隔社会教育研修用教材
- (4) チューター
- (5) ブレンディッドラーニング
- (6) 図書館関係職員研修

⑦本研究の研究報告書

- インターネットを活用した研究セミナー等に関する調査研究報告書

⑧関連する先行研究や参考となる研究等

- 「衛星通信等を活用した遠隔社会教育研修の在り方に関する調査研究」
：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター平成13年度～平成14年度
- 「インターネットを活用した社会教育研修プログラムの研究開発」
：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 平成15年度
- 「生涯学習センター等における遠隔社会教育研修プログラムの運用に関する調査研究」
：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター平成16年度～平成17年度
- 「インターネットを活用した研究セミナー等に関する調査研究」
：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター平成18年度～平成19年度